

～つばさ保育園・わかば保育園合同避難訓練～

令和5年1月19日（木）、つばさ保育園とわかば保育園による合同避難訓練を行いました。訓練は、南海トラフ巨大地震が発生したという想定で、それぞれの保育園から、ライフジャケットを身に付け、避難先の御坊中学校まで避難しました。

市のハザードマップにも掲載しているとおり、両園とも約30分で歩行困難となる30cmの津波が到達すると想定されています。今回の避難訓練では、つばさ保育園で約10分～15分、わかば保育園では約9分～14分で避難が完了しました。



園長先生に

インタビュー

角園長（つばさ保育園）と岩崎園長（わかば保育園）に、避難訓練や日頃の防災の取り組みについてお話を伺いました。

——避難訓練のときに気を付けていることについて

角 子どもたちが自分の身を守る方法を身に付けること、職員同士の動きの確認を大事にしています。ただ訓練をするのではなく、課題が見つければ改善していくことを意識しています。

岩崎 子どもたちの避難能力に差があるので、逃げ遅れたり、一人にならないよう職員同士で連携をとるようにしています。

——訓練を通して見つかった反省点や改善点について

角 避難ルートは最初車通りの少ない道を選んでいました

が、地震が起きた場合に塀が崩れて通行できない可能性も考え、広い道を通るようにしました。

岩崎 避難するためにも体力が必要なので、職員も含めて普段からの体力づくりの必要性を感じています。毎年子どもたちも入れ替わりがあるので、今の子どもたちに合った避難方法を検証するようにしています。

——日頃の防災の取り組みについて

角 地域の住民の方に日頃から見守りをお願いしており、つながりあつての防災だと感じています。月1回の避難訓練や園独自の避難袋の準備、ライフジャケットの着方を練習したり、夏にはプールで浮く練習もしています。

岩崎 地域の方と災害時お互いが助け合える関係性を構築するため、日頃のお散歩や焼き芋、ハロウィン等のイベントを通して積極的に交流す

るようにしています。地域の方とのふれあいや連携を通じて信頼関係を高めることが防災力につながると思います。

インタビューを通して

両園とも浸水想定区域にあるという危機感を持っており、子どもたちの命を守るため、防災の取り組みに力を入れています。

これからも防災対策課・保育園・地域住民で協力し、災害に強い地域づくりに努めてまいりますので、みなさまのご協力をお願いします。

